

校長室だより No 12

夏休み むかし 今 これから

2022年 7月22日 柏市立土小学校 校長 梅津 健志

前号から約1か月が経過してしまいました。保護者の皆様、地域の皆様のご協力をいただき、1学期の教育活動を終えることができました。本当にありがとうございました。コロナ感染の状況が一進一退の中、できる限り体験を失わないよう、子供の時期はこの一瞬しかないと思い、最善策を模索してきました。お気づきの点は現在実施中の学校評価にお寄せいただくと幸いです。

終業式には通知表という文化が長く続いていました。今年は通知表を2回とし、1学期末は個人面談で様子をお伝えすることとしています。通知表に代表される「評価」の役割は、今の状況を数値で査定することではなく、次にどのようなことを行うとよいか、次の手を見出すことです。変化の激しい時代の学び方は、昔とは変わってきています。これからの子供たちにとっては、学校で「何を学んだか」ではなく、「どのように学んだか」ということが大切になり、学習の結果身に付けた事も大切ですが、それ以上に学習の経過の中で経験した「学び方」の方が将来に役立ってきます。そういう学びの状況をお伝えするには、所見の文面よりも面談の方が伝わると考えています。10月の通知表では、何を学んだかの状況が中心にお伝えすることになりますので、今回の面談の中から、どのように次は学んでいけばよいかを見出せるやりとりが行われることを期待しています。一部で報道されている、「教員の働き方改革のために通知表を減らしている」のではありません。これからの時代に生きる子供に合った評価方法に変えていこうと考えています。

夏休み面白チャレンジ教室が始まりました。この企画は私の前任校である酒井根東小で2回の夏休みに実施したものを土小でも実施するものです。地域の方々のお力をいただき、普段の授業では経験できない学びの機会を設けて、普段の授業とのつながりが深まったり、子供自身の興味関心が広がるようにと思っています。前任校では文科省が視察に来ており、今回は民間企業や議会議員さん、柏市教育委員と教育長も子供たちの様子を見に来られます。高学年の子供たちの参加が少なかったことが残念でしたが、555人の定員に対してのべ377人の応募があり、充実した体験が期待できるかと思っています。夏休みの宿題というと、ドリルや感想文や自由研究、それも8月の終わりにまとめて「こなす」というイメージが無いでしょうか。「こなす型」の宿題では意味が薄いので、宿題を無くしたら、子供たちは興味に従って自主的に学びに向かうでしょうか？遊びと学びの真ん中ぐらいの経験を夏休みに、そして普段の先生とは違うその道の人から学ぶことが、本当の意味で何かを学んでみよう！という気持ちにつながるのではないかと、これからの夏休み宿題は？とも考えて実施しています。HPから様子を発信しますので、感想に加えて「こんな教室もできますよ」の声をお待ちしています。